

特定非営利活動法人 日本雲南^{れんご} 友誼協会

【東京本部】〒162-0846 東京都新宿区市谷左内町21-13 1階
Tel. 03-5206-5260 Fax. 03-5206-5261
Email: yunnan@jyfa.org
URL: http://www.jyfa.org/
【雲南支部】中国雲南省昆明市人民東路289号集大広場2011室
Tel. +86-871-3311468 Fax. +86-871-3320658

編集・発行人 初鹿野恵蘭
印刷協力 株式会社印刷 株式会社評論社



Japan Yunnan Friendship Association

彩雲の南

第28号

会報

発行日 2009年(平成21年)2月10日

四川省大地震 傷跡なお深く... 被災者救援募金贈呈のご報告

●地震後半年の節目に

忘れられないあの日から半年…。2008年11月12日～15日、初鹿野恵蘭理事長と関係者3名が、四川大地震被災者救援募金を届けるため、四川省に赴きました。この募金は同年5月12日に発生した四川省大地震を受け、当協会が会員や関係者に呼びかけたもので、約600万円のご厚志が集まりました。

当初、この支援金を小学校の再建に充てることを考えていましたが、事前の現地聞き取り調査から、既に小学校や中学校の再建資金は多く集まっていることが判明しました。四川省政府より、将来再建すれば子どもたちにとって大きな財産となるであろう四川省綿陽市青少年活動センターへの資金提供についての提案があり、今回、震源地に程近い被災地北川チン族自治県および綿陽市青少年活動センターを視察することとなりました。

●北川チン族自治県の様子

北川県の中心部には、もとは3万人が生活しており、うち1万人ほどが少数民族のチン族です。5月12日の地震の後、感染症の蔓延を懸念した政府が、町を完全に閉鎖し、立ち入りを禁止しました。さらに9月に続いた長雨による土石流で、町は完全に土砂で埋没してしまいました。私たちが立ち入ることはできず、山の上からの視察となりました。政府の話によれば、この一帯をそのまま保存し、地震博物館とする構想とのこと。山のちようど斜面には崩れた北川中学が見えましたが、ここは600人以上が建物の下敷きになるなどして命を落とし、日本でも大きく報道されていた学校です。無残な町の状態を眺め、当時の状況が目には浮かび、背筋がぞつとする思いでした。



地震前と地震後の北川県中心部

●仮設小学校と綿陽市青少年活動センター

プレハブの仮設住宅が何百とならぶ地域の一角には、プレハブの小学校がありました。中には、親を亡くした子どももいます。訪問時はちょうどお昼時で、子どもたちは元気いっぱい笑顔でご飯を食べ、活気に溢れていました。その様子を見ると一同はほっと心が和みました。

続いて、支援先となる青少年活動支援センターを視察しました。市内の青少年課外活動(スポーツ、芸術、交流、イベント)を行ってきたセンターも、大地震により建物が使えなくなり、活動停止状態になっています。一行は、建物の天井や壁が剥がれ落ち、屋根の瓦も落ちて危険な状態を視察しました。このセンターは、政府復興政策のうち、学校や市役所などとは違って第二期に分類されるため、未だに資金が集まらず、再開のめどがたっていません。



子どもたちは元気いっぱい



視察を終えて綿陽市内に戻った一行は、支援金の贈呈式に臨みました。皆さまからの募金のうち、500万円を贈呈し、残りは、今後綿陽市青少年活動センターと継続的に交流を続けていくための資金となります。同センター主任からは、センターの概要について説明があり、また綿陽市副市長からは募金へのお礼のお言葉をいただきました。現在、四川省には多額の支援金が世界中から寄せられているようですが、副市長によれば、詳細の使途が分からなくなってしまうことも多く、今回のように、支援者側が実際に現地へ視察に来て、支援先を確かめた上で資金を渡したことは大変良いことだと話されていました。募金をしてくださった一人ひとりの方に対してきちんと説明ができる最良の方法だったのではないかと思います。今後、センターは綿陽市の子どもたちにとって大きな役割を担ってくれることが期待されます。

本館・研修所・附属動物園からなる同センターは、2010年12月の再建完成を目指し、現在資金を集めています。今後、新しい施設として500人を収容できる宿泊所を設け、国内外の青少年が交流を行えるような施設と、地震後の心のケアについても同センターが中心になって取り組んでいく予定です。

●募金贈呈式

視察を終えて綿陽市内に戻った一行は、支援金の贈呈式に臨みました。皆さまからの募金のうち、500万円を贈呈し、残りは、今後綿陽市青少年活動センターと継続的に交流を続けていくための資金となります。同センター主任からは、センターの概要について説明があり、また綿陽市副市長からは募金へのお礼のお言葉をいただきました。現在、四川省には多額の支援金が世界中から寄せられているようですが、副市長によれば、詳細の使途が分からなくなってしまうことも多く、今回のように、支援者側が実際に現地へ視察に来て、支援先を確かめた上で資金を渡したことは大変良いことだと話されていました。募金をしてくださった一人ひとりの方に対してきちんと説明ができる最良の方法だったのではないかと思います。今後、センターは綿陽市の子どもたちにとって大きな役割を担ってくれることが期待されます。



青少年活動センター内部



贈呈式にてセンター主任と初鹿野理事長(中央)

●視察を終えて

被災地の状況は、まだまだ復興には時間がかかるという印象でした。崩れたままになっている建物も非常に多く、人々の生活も切迫していることが見受けられました。車窓からは、崩れた農家や建設中の建物とともに、道路の両側にレンガがびっしり積み重ねられている様子や、「救災」の文字が入った仮設住宅が並んで見えました。訪問したテントでは、4畳程度の狭い内部に5人家族が暮らしていました。住宅再建のため、政府からは1家庭につき数万円(数十万円)が支給され、住宅が完成した段階で仮設住宅やテントを出るそうです。しかし、農村地域の住宅の再建は、レンガを積んでセメントで外壁を塗っただけの造りがほとんどで、もう一度大きな地震が発生すれば、あっけなく崩壊するであろうことが容易に想像できます。大地震が残した大きな爪跡と、多くの課題を抱えながらも、生き残って懸命に暮らす人々の姿が強烈に心に残った視察となりました。一日も早い復興と人々の安全な暮らしを願ってやみません。



一家五人でテント暮らしをしている住民

【協力機関(敬称略)】

中華人民共和国駐日本国大使館領事部総領事・許沢友、領事・劉敬師/四川省人民政府債務弁公室 副主任・張錫勇、同国外処長・洪革、王凌萍/綿陽市人民政府副市長・孫波、綿陽市委員会、総工務局 主任・王慎/綿陽市共産党青年團書記長・廖雪梅、副書記長・賈駿/綿陽市青少年活動センター主任・伍軍、顧映奎

【支援金贈呈式及び視察参加者】 萩原光廣、平田栄一、初鹿野恵蘭理事長、七田怜東京本部スタッフ

25の小さな夢基金 文通で子どもたちの温かい交流を サポーター登録受付中! 現在、サポーター数47名、支援を受ける生徒は58名になりました!

「25の小さな夢基金」では、雲南省昆明市の昆明女子中学(高校)に通う女子生徒のサポーターとして就学支援をしながら、文通での交流を行います。サポーターは日本語で手紙を書けばOK、協会で翻訳して子どもに手渡されます。子どもからの手紙は、便箋いっぱいになり書かれたサポーターへの感謝の気持ちが溢れています。こちらも協会からの翻訳をつけてお届けします。皆さんもサポーターになってみませんか?

Advertisement for '25 Small Dreams Fund' featuring a photo of a student and text about the program.

こんにちは! 私は大理という美しいところから来た白族(白族)の善良な女の子です。私の故郷は、大理の北部の山や水が澄んでいて美しい小さな村「〇園」というところにあります。家族は父、母、祖父、兄と私です。機会があれば、ぜひ故郷へ遊びに来て下さい。あなたと知り合うことができ、また心のこもった援助を受けられて、本当に光栄です。この場を借りて心から感謝したいと思います。あなたの親切心によって、私はこれからも強い信念で夢を追いかけることができます。困難や挫折を克服する勇気も与えられました。私は忘れず頑張って最後には成功したいです。勉強も必ず頑張って、あなたの期待を裏切らないようにします。私はずっと自分に言い続けています。「たとえ転んでも、笑顔で這い上がるのだ!」私は、もっと強く勇敢になろうと思います。

将来いつか、日本のあなたを訪ねて、一言「ありがとう」と言いたいです。私の感謝の思いは、本当は「ありがとう」だけでは伝えきれません。同時に「愛」にも感謝したいです。「愛」は私たちにこんなに近くさせてくれたのだから。私は、将来あなたのように、自分の愛をたくさんの人に分け与えたい人になりたいです。私の父は、私に安と名づけ、兄には平と名づけました。これは私達が人に平安をもたらすようにとの願いからです。平安があって、人は幸せになります。だから、私はあなたとご家族の皆様にも平安をもたらすことができたらと思います。良い人は一生平安に暮らすことができます。あなたのようにとても良い人で天使みたいに善良な方に必ず! あなたとご家族の皆様が幸せでご健康でありますようにお祈りいたします。

※資料用のため、上記手紙の内容と顔写真の生徒は一致しません

歌って踊って大賑わい！ 大成功の2008年チャリティ忘年会



2008年12月20日(土)、クリスマスムードたっぷりの東京恵比寿BEER STATIONにて、2008年チャリティ忘年会が開催されました。

当日は初鹿野恵蘭理事長はじめ、日本各地から90名以上の方がご出席くださいました。今回は半数近くが初めてご参加の方々。これも大変嬉しいことです。

ご来賓挨拶では、中華人民共和国駐日本国大使館領事部の趙督領事より、ご自身の出身が四川省ということもあって、四川省大地震救援募金に対する感謝の意が述べられました。続いて初鹿野理事長から今年一年の皆さまのご支援に感謝の言葉を述べた後、協会の活動をスライドで紹介しました。薄田栄光プロジェクトマネージャーが編集してくださった、「100万回の手洗いプロジェクト 基礎調査」の様子と第17校目茂頂小学校開校式の短編ビデオを上映では、普段なかなか見えていただく機会のない動く映像に、皆さまは臨場感を感じてくださったのではないのでしょうか。

次に、表彰状・感謝状の贈呈式が行われました。これは、協会の教育支援活動に永年に亘ってご尽力下さった方や小学校建設支援に多大なご支援を下さった方々に、せめてお礼の気持ちをお伝えしたいということで、今回は、個人、法人合わせて10名の方

を表彰しました。また、会の発展に大きく寄与したという功績を称え、寺内明子大宮支部長に感謝状が贈られました。思いがけないできごに、寺内大宮支部長は初め大変驚いた様子でしたが、次第に感極まってうっすらと涙を浮かべていたのが印象的でした。また、今回感謝状を差し上げられなかった他の多くの方々にもこの場をお借りして御礼申し上げます。

さて、忘年会は今年もアトラクションが目白押しでした。鈴木昌子さんのお琴と高山千代美会員の歌のコラボレーションは、生演奏で迫力満点！特に日本の童謡「ふるさと」では、趙領事も飛び入り参加、その美声を披露してくださいました。

続いては、会員の丁勇軍さんご指導による花腰イ族の踊り。全員飾りのついた民族衣装のベストを着て、煙盒(イ族の楽器)を持ち、さあ、いよいよダンス開始です。両手両足を使い飛び跳ねるようにして踊るイ族のダンス。手と足がかみあわなかったり、アップテンポの曲に息があがったりしながら、みなさん笑顔！曲が終わる頃には、すっかり気分が高揚していました。

そして、お待ちかねのビンゴ大会！協会からの景品のほかに、中国風テーブルセットや、世界遺産DVDBOX、年末ジャンボ宝くじ、シルクパジャマなどなど、会員の皆様からご提供いただいた豪華な景品がテーブルに並べられました。ビンゴの司会は峰尾勝美会員。ゆったりとした口調ながらもユーモアを交えつつ、ビンゴタイムを盛り上げてくださいました。

あっという間に時間は過ぎ、来たる2009年の幸せを願いながら、忘年会は成功裏に幕を閉じたのでした。



乾杯！笑顔が溢れます



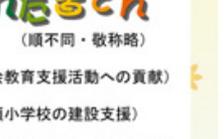
イ族の踊り 会場の盛り上がりは最高潮に

【ご寄付一覧(順不同・敬称略)】

中華人民共和国四川省人民政府、株式会社技術評論社、株式会社ウェストン、東京たまがわロータリークラブ、全日本鉄道労働組合総連合会、シップヤード有限公司、株式会社DNP映像センター、小澤文穂、小林陽子、その他の方々【当日ボランティア協力(敬称略・順不同)】

NORINE(のりね)、初鹿野仁、大塚由子、狩野千尋、田中江利、小野保(写真撮影)、森川雄一郎(ビデオ撮影)、鈴木昌子(等演奏)、高山千代美(歌)【当日ボランティア(日本・雲南聯誼協会より)】

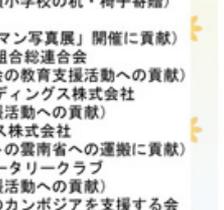
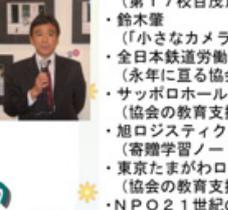
岩間辰志顧問、片岡順顧問、小澤文穂顧問、安達武史顧問、中村有里子理事、遠藤功理事、大賀修平理事、唐澤英安理事、桂正徳理事、初鹿野恵蘭理事、杉谷隆志専任理事、樋口忠治顧問、根岸恒次顧問、東郷浩顧問、曹光顧問、村松健児監事、佃純誠監事、寺内明子大宮支部長、近藤親一名古屋支部長、初鹿野恵蘭理事長、東京本部(七田怜・杉本文子)



春を彩る皆様

(順不同・敬称略)

- ・近藤親一 (永年に亘る協会教育支援活動への貢献)
- ・峰尾勝美 (第17校目茂頂小学校の建設支援)
- ・佐藤福久 (第17校目茂頂小学校の机・椅子寄贈)
- ・鈴木肇 (「小さなカメラマン写真展」開催に貢献)
- ・全日本鉄道労働組合総連合会 (永年に亘る協会の教育支援活動への貢献)
- ・サッポロホールディングス株式会社 (協会の教育支援活動への貢献)
- ・旭ロジスティクス株式会社 (寄贈学習ノートの雲南省への運搬に貢献)
- ・東京たまがわロータリークラブ (協会の教育支援活動への貢献)
- ・NPO21世紀のカンボジアを支援する会 (永年に亘る協会の教育支援活動への貢献)
- ・寺内明子 (大宮支部の発展に寄与)



協会の感謝を込めて

小さなカメラマン写真展 子どもたちの瞳に写ったもの 夢、希望、家族への愛

2008年11月5日(水)～9日(日)、東京・恵比寿にある「恵比寿麦酒記念館」にて、中華人民共和国駐日本国大使館領事部後援、サッポロホールディングス株式会社協賛により、当協会主催写真展「小さなカメラマン 子どもたちが見たふるさと中国・雲南省」を開催しました。

今回の写真展は、2年前から企画され、協会が支援した8つの小学校の子どもたちに撮りつけたカメラを渡し、子どもたちの日常生活、夢や希望を撮ってもらおうという趣旨で実施されたものです。今年の夏にカメラを回収、日本で現像し、約1300枚にのぼる作品の中から7種族の子どもたちが撮った45点を厳選して展示しました。5日間で800人余の方が御来場くださり、大盛況のうちに終了することができました。

初日のオープニングパーティでは、中国大使館から許沢友総領事や、その他協会関係者60名を超える方々がお集まりくださり、ギャラリー内は満員、熱気に溢れていました。オープニングの席で、初鹿野恵蘭理事長からは「2年越しの企画が多方面の方々からのご協力をいただき実現し、本日このような素晴らしい場所で写真展が開催できたことを大変嬉しく思います。感謝の気持ちはとても表しきれません。」という挨拶がありました。

今回の写真展は、写真1点ずつに、撮影した子どものプロフィールを付け、その子どもが写真を紹介するような展示の工夫をしました。また、子どもたちの所属する小学校の紹介パネルを展示したり、小学校の机と椅子を配置して子どもの作文帳など文房具を実際に展示したりして、雲南省の学校の雰囲気演出しました。

ご来場の方からは、縄跳びをしている子どもの影を写した作品「休み時間」(下の作品左から2番目)など、その構図の大胆さや、家族・友人たちの非常に打ち解けた表情がとても良いと、多くのお褒めの言葉をいただきました。数十年前の日本もこのような様子だったと郷愁を感じた方も多かったようです。

子どもたちの写真から雲南省の少数民族の実状をはじめ知り、何か支援をしたいと言っておられる方もいて、この写真展を通じてそうした思いを持ってくださる方がお一人でも増えて下されば、協会としてこれ以上嬉しいことはありません。今後は、より集客力をアップし、写真を通して協会の活動に関心を持ってもらうにはどうしたらよいか、さらに検討する必要があります。

写真展にご協力くださったすべての方に、改めて御礼申し上げます。

写真展 小さなカメラマン 展示作品の一部



ご協力、ご支援くださった皆様(敬称略、順不同)
 【後援】中華人民共和国駐日本国大使館領事部
 【協賛】サッポロホールディングス株式会社、株式会社技術評論社
 【総指揮】鈴木肇
 今回のこの写真展は、当協会会員であり、プロの鉄道カメラマンでもある鈴木肇さんのご提案で企画されました。カメラのご提供から、現像、写真の選定、額装、展示と、まさに八面六臂の活躍をさせていただきました。心より感謝申し上げます！
 【会場協力】恵比寿麦酒記念館、株式会社フォンテックツール
 【飲料提供】サッポロホールディングス株式会社
 【机イス貸出】渋谷区立神南小学校
 【翻訳チーム】久保沙登美、井上朝敏、鈴木智恵、大滝美佳、太田益富、大塚由子
 【制作チーム】安達武史、富安朱美、大塚由子、田島伸浩、株式会社技術評論社(水口俊裕、加藤久)

【搬入、搬出チーム】JR総連(糸山敏和、鎌田寛司)
 【会場チーム】近藤親一、林隆史、安達武史、吉村周吾、富安朱美、番匠基之、中村有里子、小野保、寺内明子、林隆史、JR総連、JR貨物労組(佐藤啓、長谷川誠、坂本敬、山口通広)、JR東海労、狩野千尋、大塚由子 他
 【オープニングパーティ挨拶】許沢友様(中華人民共和国駐日本国大使館・総領事) 東山定弘様(恵比寿麦酒記念館館長) 山根祥利様(山根法律総合事務所所長・協会顧問) 片岡順様(株式会社技術評論社社長・協会顧問)



～答えは自分で学び、考え、見つけていこう～
国際理解のための講演会・出張授業を実施中!

神奈川県茅ヶ崎市立中島中学校
東京都狛江市立第五小学校



写真左から
1) 熱心にメモをとる中島中学校の生徒たち
2) はじめてみる民族ファッションに女の子は興味津々(同校)
3) スライドとビデオを使って視覚・聴覚に訴えます(同校)
4) 狛江第五小学校では、少人数で楽しいクイズ形式の授業をしました

当協会では、日本国内の小中学校への講演活動・出張授業を積極的に行っています。2008年10月～11月にかけて、神奈川県茅ヶ崎市立中島中学校にて初鹿野理事長の講演会が、続いて東京都狛江市立第五小学校にて、協会スタッフによる国際理解の出張授業が行われました。

中島中学校での講演は昨年引き続き、今回で2回目になります。対象となる1年生144名は、どの顔にもまだあどけなさが残っていて、会場に入ってきた私たちメンバーを見つけると元気に挨拶をしてくれ、彼らの初々しさ、素直さに初鹿野理事長の顔は終始ゆるみっぱなしでした。講演は、舞台上のスクリーンに画像等の資料を投影しながら、雲南とはどこか、雲南と日本とのつながり、雲南の子どもの日常の暮らし、教育事情、そして協会はどんな活動をしているかなどを説明しました。その間、生徒達は真剣な面持ちで、一生懸命ノートに書きこみながら話に聞き入っていました。また、民族衣装を身にまとった東京本部スタッフより、開校式ツアーの記録ビデオを紹介し、雲南の山間奥地の険しい自然環境のなか、少数民族の人々が貧しく質素な生活をしていることや、農作業や家畜の世話、家事手伝いをしなければならない現地の子どもたちと、彼らにとって学校で勉強することは大きな喜びであることを、伝えました。最後にはQ&Aタイムを行いました。担当の先生から生徒達の疑問・質問をまとめたメールを事前に受け取っていましたが、せっかくの「対面の場」ということで、協会スタッフと生徒たちがじかに対話できるように、その場で生徒からの質問を直接受けつけることになりました。するとどうでしょう、次から次へと生徒たちは元気よく手を挙げ、いろいろな質問を投げかけてきました。質問は、雲南の少数民族の暮らし、衣食住など生活・文化に関するものや、日本と中国の関係や中国における経済発展と格差の問題、中国の政治状況などに関連するものなど、多岐に渡っていました。

とても鋭い質問もいくつかあり、例えば「中国では、どうして貧富の差が大きいので

すか?」「中国はオリンピックや軍事費にたくさんお金を使うのに、なぜ少数民族の子どもたちを助けないのですか?」など。長年、高校教師をしていた東京本部の梅本からは講演の最後に「答えは、これから自分であれこれいろいろなものを見、聞き、調べてください。そのためにあなた達は、今、こうして学校で学んでいるわけですから、皆さんが抱いた疑問こそがまさしく学校で学ぶ出発点だと思ってください。答えを覚えてもらうだけではなく、自分で調べ、考え、そして答えを見つけてください。」と生徒たちにエールを送り、締めくくりました。

東京都狛江市立第五小学校では、「世界を知ろうクラブ」の小学4～6年生までの児童20名に対し、東京本部七田が出張授業をしました。当日はこの出張授業の仲介をしてくださった、東京たまがわロータリークラブの山根祥利当協会顧問、坂場一隆さん、中野陽一さんが同行し参加しました。始業のチャイムが鳴ると「世界を知ろうクラブ」の子どもたちが続々とパソコンルームに入ってきました。

子どもたちは、民族衣装を着たスタッフを見ると、興味津々の眼差しでそわそわしています。担当の先生のユニークな導入で、いよいよ出張授業が始まると、子どもたちは海外への興味が高いせいか、用意した衣装や言葉、地理に関するクイズに次々と元気に正解し、私達をととても驚かせました。雲南省の激流の川をロープ1本で向こう岸へ渡る「溜索(リウスオ)」の映像や、狭い山道をひたすら歩く通学路の映像を見ると、子どもたちは「ヒヤッ」「うそー、無理!」と悲鳴をあげ、素直な反応を見せていました。授業の最後には、「ご飯はなにを食べているの?」「溜索(リウスオ)で落ちちゃう人はいるの?」など、子どもらしい質問もたくさん出ました。

私たち協会の願いは、日本の子どもたちが、中国雲南省の同年代の子どもたちの生活や学校の様子を知り、少しずつ広い視野を養い、自分自身で考え行動していく力を得てほしいということです。今後も、積極的に出張授業を行っていききたいと思います。

北京パラリンピック閉会式
初鹿野理事長が出席しました

2008年9月17日

数々のドラマが感動を呼び起こした北京オリンピックが閉幕してまもなく、身体障害者の方々のオリンピック「北京パラリンピック」が開催されました。中国国務院より世界24カ国100人の華僑が北京パラリンピック閉会式に招聘され、初鹿野理事長が日本の華僑

代表として出席しました。「鳥の巣」スタジアムは想像以上に大きく、圧倒されるものがありました。国際パラリンピック委員会のクレブ会長は、式上の挨拶で「歴史が一番素晴らしい大会だった」と評されていましたが、テーマ性があり、美しいアトラクションの数々でした。印象に残ったのは、会場で一生懸命に働いていた多くのボランティアの若者たちでした。中国でも、四川省大地震やオリンピックをきっかけにボランティア活動が広がっています。こういった若者たちの姿に、とても励まされる訪中となりました。



閉会式が行われた鳥の巣スタジアムにて、初鹿野理事長とボランティアの若者たち

国内のイベント参加報告

日本最大200の国際協力団体の集い
グローバルフェスタ2008に出展しました



2008年10月4日(土)・5日(日)の2日間、今年も初鹿野理事長を含め17名のボランティアが「グローバルフェスタ」JAPAN2008に参加しました。東京日比谷公園いっばいに約200の出店団体がお店を並び、世界の各地を支援する団体が、それぞれの地域の民芸品や食べ物

を販売し、支援活動の様子を展示しました。2日間の全体合計来場者数は約10万人。我々も協会の活動を紹介するパネルを展示、雲南省の民芸品を販売した他、今年はくじ引きも行って大好評でした。中国に関心のあるお客さまが見えた他、国際協力に関心のある若い女性の方も目立ちました。パネルをひとつひとつ丁寧に見てくださった、雲南省や少数民族について色々質問して下さった方もいました。グローバルフェスタ参加団体の中には、中国と関係する国際協力団体が少ないので、こういった機会に協会の存在を知っていただくのは大きな力になると感じました。

【ボランティア一覧(敬称略・順不同)】山口信正(21世紀のカンボジアを支援する会・理事)、安達武史、吉村周吾、近藤鶴一名古屋部長、近藤森雄、小野保、MayMok、楊林、太田益富、大塚由子、狩野千尋、山本忠明、初鹿野仁、寺内明子大宮支部長、初鹿野恵蘭理事長、東京本部(七田伶、梅本薫、杉本文子)

秋晴れの八王子いちよう祭り
協会ブースは大賑わい!

2008年11月22日(土)・23日(日)の2日間、東京都八王子市の甲州街道で恒例の八王子市主催いちよう祭りが行なわれ、今年も当協会が出展し、初鹿野理事長含め、11名のボランティアが参加しました。当日はお天気に恵まれ、プールの試飲会も行い、お客様に大好評。約7万円もの売上げがありました。会員の小野保さんからの報告でお送りします。「今年で第29回を迎えるお祭ですが、黄色く色付いたいちよう並木が続く甲州街道でクラシックカーのパレードやふる里パザール、YOSAKOI踊りのパレード等楽しいイベントがたくさんありました。晩秋の良い天候にも恵まれ人出は多く、協会のお店の前も人通りが途切れることはありませんでした。協会の活動紹介パネル展示や店頭での雲南民芸品の販売を行い、初鹿野理事長が先頭をきって切り盛りし、スタッフの皆さんも大忙しで対応されておりました。立ち寄って頂いた人には、中国雲南省の一端をご理解頂いたものと思います。」(小野保会員)



【ボランティア一覧(敬称略・順不同)】小島様(家主・会場提供) 峰尾勝美(いちよう祭ボランティアリーダー)、峰尾洋子、井上祐子、井上ジャム、鈴木暎、節清史、小野保、初鹿野仁、初鹿野恵蘭理事長、東京本部(梅本薫、七田伶)

熱気溢れる彩の国
埼玉国際フェア2008



2008年11月8日(土)・9日(日)の2日間、埼玉県の大宮ソニックシティで埼玉国際フェアが行なわれ、当協会大宮支部の寺内明子支部長を含め、12名の皆さんが参加しました。期間中は、屋外展示の団体さんには気の毒な寒さでしたが、協会は屋内展示、なおかつの熱気で、むしろ暑いくらい。雲南省の民芸品の売れ行きも、恵比寿の「小さなカメラン」写真展以上に好調で、ブースには客足が途絶えることがありませんでした。埼玉の方は、国際交流に関心が高いようで、嬉しいですね!

【ボランティア一覧(敬称略・順不同)】寺内明子大宮支部長、寺内憲一、市川由美子、小川輝夫、小野保、川口邦夫、高橋福子、大泉国雄、鳥羽清弘、星野京子、丸太智代、松尾ユイ

イベント時にはいつも多くのボランティアさんが活躍してくれま

大好評だった
玉ストラップ



初鹿野理事長・岩間辰志協会顧問 中国大使館を表敬訪問

東京・2008年11月27日 交流活動

初鹿野理事長と岩間辰志顧問が、中華人民共和国駐日本大使館領事部を表敬訪問しました。同領事部には、写真展の後援などを始め、協会設立から様々な面で大変お世話になっています。

当日は、「小さなカメラマン写真展」にもお出で下さった許沢友総領事と劉敬師領事が暖かく出迎えて下さいました。4人は、中国と日本の最近の情勢や友好関係について熱く語り合い、特に両国の友好関係については、国レベルでの交流はもちろんのこと、民間レベルでの交流が欠かせないと、皆思いは同じでした。

また、許総領事からは、協会の活動及び日本国民の皆さんに対し、中国の子どもたちへの教育支援に感謝のお言葉をいただきました。そして、これからも領事部としてできる限りのことをしたい、互いに協力し合っていきたいとおっしゃって下さいました。両領事の心強いお言葉に勇気をいただき、今後更に教育支援を推進していこうと決意も新たに大使館を後にしました。



許沢友総領事(右)とともに

高知高専「星瞬祭」で募金活動

高知・2008年11月1、2日 交流活動



展示物を見る高校生たち

高知空港のすぐそばにある高知工業高等専門学校。同校の教員で、当協会会員でもある高野弘先生のご縁で、昨年に引き続き、今年も、学園祭「星瞬祭」で当協会の活動紹介や募金活動をしてくださいました。高野先生からのご報告を掲載します。

「こんにちは! 高知高専アースディ(地球の日)部です。アースディ部では校内植栽、物部川堤防や海岸の清掃活動などのボランティア活動に加えて、昨年度から、学園祭で日本・雲南聯誼協会の活動紹介や募金活動を行っています。今年、「留学生とのコラボスペース」という企画で、留学生の本国(6ヶ国)と雲南省の紹介を行いました。協会から提供して頂いた民族衣装とマレーシア留学生の衣装の展示・試着会、協会紹介DVD放映や6ヶ国の挨拶比較、トンパ文字紹介、協会HPの写真集展示等々に加えて、学生会・校友会・アースディ部合同のバザーを開催して、売り上げの3分の1を協会への寄付金として頂くことができました。会場での募金と合わせて合計3万円を、12月2日に東京本部に届けさせて頂きました。年に1度だけの支援活動ですが、大切に継続させていきたいと思っております。協会から色々とお便りを頂戴することに感謝いたします。今後共宜しく願います。」(高知工業高等専門学校 高野 弘)



雲南省は中国最西南部に位置し、ミャンマー、ラオス、ベトナムと国境を接しています。面積は約39万km²(日本とほぼ同面積)、人口約4300万人です。土地の94%が山地で、海拔76mの河口から6740mの梅里雪山という高山も存在する特色豊かな地域。世界遺産登録地も多く、最近では観光面からの注目を浴びています。

雲南省について

雲南を彩る25の星たち 少数民族の春節

中国の旧正月である「春節」は、漢民族だけでなく、少数民族の祭日でもあります。その日に各民族はそれぞれの風習に従い、ユニークな過ごし方をします。チベット族の男性は、大晦日に鮮やかな服を着て顔にマスクをかぶり、楽器の演奏とともに歌い、踊る「跳神会」を行い、新しい年を迎える喜びを表します。一方、女性は山に行って「神水」を運んで来て神様に新しい一年のご加護を祈ります。ペー族は春節の日に「放高昇」という儀式を行います。一本の大きな竹の節に火薬を入れ、火をつけると竹は一本一本高く飛んでいき、まさに文字通り「高く昇る祭」となります。また、玉投げのイベントも行います。玉は布を手縫いた軽いもので、投げられた球を受け取れなかった場合は、投げた人へプレゼントを渡さなくてはなりません。玉を受け取れなかった回数が一番多い人は、投げた人の愛を承諾したこととみなします。リス族はお餅とお酒を作り、最初にできた餅を桃の木と梨の木のそばに置き、新しい

草の根の教育支援活動を評価され 第二回かめのり賞を受賞

東京・2009年1月9日 交流活動

かめのりフォーラム 第2回かめのり賞表彰式



授賞式の様子

当協会は昨年、山根洋利顧問のご紹介で、かめのり財団「かめのり賞」に応募し、嬉しい受賞の知らせをいただきました。この賞は、日本とアジア・オセアニアとの国際理解の増進に草の根で努力している団体、個人に贈られるもので、協会の永年に亘る日本と中国雲南省での地道な活動が評価されたわけです。この式典に出席した初鹿野理事長は、「この財団の活動は、現実的で着実な人材育成の成果が見えるもので、大変素晴らしいと思います。特に、奨学金を受けた日本人学生が中国留学した際の体験スピーチでは、違う角度から自分の国を見ることができた、ということに感激しました。また、今回かめのり賞を受賞して大変励みになりました。今後更にNGO・NPOとして相応しい活動をしていきたいと思っております。」と抱負を述べていました。

当協会が雲南省人民政府から表彰されました

東京・2008年10月18日 交流活動

雲南省人民政府による「捐贈雲南公益事業授賞大会」が雲南省・昆明市にて開催され、初鹿野理事長が出席しました。この大会は、雲南省の公的な利益に対し大きな貢献をした海外の団体を表彰する式典で、当協会もこの栄誉ある賞を受賞し、さらに受賞団体中の「模範団体」としても表彰されました。当日は、世界で活躍する中国出身の企業など合計35団体が出席しました。雲南省における当協会の長年に渡る教育支援活動が、雲南省政府に表彰という形で認められ、今後も支援活動をより活発に進めていこうと気持ちを新たにしました。



左から3人目 初鹿野理事長

手作り餃子で年忘れ 大宮支部忘年会

埼玉・2008年11月30日 交流活動

2008年11月30日(日)、当協会大宮支部にて、一足早い忘年会が開かれました。当日はよい天気にも恵まれ、19名の参加者が寺内明子大宮支部長宅に集まりました。ボランティアの市川さんは、前日から餃子作りの準備やお掃除まで手伝って下さいました。また、当日も朝早くから来て、同じくボランティアの長澤さんと一緒に料理のお手伝いをして下さいました。

正午ごろ、皆さんと一緒に楽しく餃子を作りました。初めての方もいらして「さて、餃子の形はどうなるかな?」とははらわくわく!午後一時になり、法人会員のご夫妻もいらして、ワインで乾杯をして会が始まりました。皆で手作りした餃子は格別においしく、変わった料理(豚足、豚血のゼリー寄せ)も出て、皆さんびっくりしたのでは?飲んだり食べたりしていると自然と話題は雲南省に移っていきます。会員の高橋さんは、雲南省に5回行った経験があり、旅行するときのコツをいろいろ教えてくれました。お忙しい中おいでくださった皆様ありがとうございました!

【当日ボランティア協力(敬称略・順不同)】
市川由美子、小俣小輝、長澤雪、寺内明子大宮支部長、寺内憲一

1瓶1100g入り 9,000円 会員価格あり

日本ケイエム交際株式会社
NPO法人日本雲南聯誼協会を応援しています

血行不良は万病のもと、
このような方にお勧めします。

- 健康維持したい方
- 免疫力などを高めたい方
- 朝さわやかに目覚めたい方
- 美容が気になる方
- 体力増強したい方

ご注文 電話 **042-659-2997**

純粋田七

年いっぱい実るようにと願いを込めます。また、畑で仕事を手伝ってくれる牛に塩を与えるのですが、これは一年間の労働を労うためです。若い男女は射撃ゲームを行います。女性は自分で刺繍した巾着を竹ざおに吊り下げ、巾着を左右に揺らします。男性はそれを射撃するのですが、先に巾着を打ち落とした人はその女性からおいしいお酒をもらうことができます。ラフ族は、大晦日の夜に一年の汚れと邪気を払うため家族全員が体をきれいに洗います。また、翌日は食べ物をたくさん作りませんが、この中でお餅が一番重要視され、食べる以外に農具にも少しずつ置いて、一年の農作業の労いととも、新しい年の豊作を願います。ブイ族は、大晦日の夜、村人全員が村にある池を開んで元旦を迎えます。お正月の太陽が顔を見せると、若い女性たちは争って自分の家に水を運びます。最初に家まで水を運んだ人はこの年一番よく働く人で、一番幸せな「福女」となるのです。(雲南支部・林郷)

